

優先対象者の意識に着目した 席を譲る行動の研究

高田 祐孝¹・海野 遥香²・寺部 慎太郎³・柳沼 秀樹⁴・鈴木 雄⁵

¹学生会員 東京理科大学 理工学部土木工学科 (〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641)

E-mail: 7619061@ed.tus.ac.jp

²正会員 東京理科大学嘱託助教 理工学部土木工学科 (〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641)

E-mail: unoharuka@rs.tus.ac.jp

³正会員 東京理科大学教授 理工学部土木工学科 (〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641)

E-mail: terabe@rs.tus.ac.jp

⁴正会員 東京理科大学准教授 理工学部土木工学科 (〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641)

E-mail: yaginuma@rs.tus.ac.jp

⁵正会員 東京理科大学嘱託助教 理工学部土木工学科 (〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641)

E-mail: yusuzuki@rs.tus.ac.jp

公共交通機関では、一般利用者が席を譲れないケースが存在する。一般利用者が席を譲らない理由について、優先対象者に配慮した行動が分からないことが原因だと考えられる。そこで本研究では、優先対象者に配慮した行動を把握することを目的とする。アンケート調査と分析を行ったところ、妊婦、乳幼児連れに配慮した行動は「声がけ後に譲る」、内部障がい者に配慮した行動は「会釈後に立ち去る」、65歳以上に配慮した行動は「その場から去る」であるということが分かった。また、ケガ人、下肢不自由者、マタニティマークを着用している妊婦に配慮した行動は「声がけ後に譲る」と「会釈後に立ち去る」、ヘルプマークを着用した優先対象者に配慮した行動は「声がけ後に譲る」と「その場から去る」であるということが分かった。

Key Words: Behavior of giving up your seat, Priority seating, Maternity mark, Handicapped person

1. はじめに

我が国のユニバーサルデザイン2020行動計画¹⁾では、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことを指す「心のバリアフリー」が唱えられている。この「心のバリアフリー」の代表例として公共交通での席を譲る行動が挙げられる。

公共交通車内で、一般利用者が優先対象者に席を譲りやすくする施策として、ポスター掲示や優先席の設置が為されている。しかしながら、JR東日本の優先席に関する調査²⁾では、優先対象者は譲って欲しいと思っているが、多くの一般利用者が優先席を譲っていないことが明らかになった。また、一般利用者が席を譲れない理由として、「声をかけると逆に失礼かもしれないから」が挙げられている。先述した席を譲れない理由について、優先対象者に配慮した行動が分からないことが原因の1つだと考えられる。既往研究では、優先対象者や一般利

用者の意識を把握できるが、優先対象者に配慮した行動を把握することができない。ここでの配慮した行動とは、優先対象者が気持ち良く座れ、申し訳なさを感じにくい行動のことである。そこで、本研究では、優先対象者を回答者とする意識調査を行い、優先対象者に配慮した席を譲る行動の把握を目的とする。

2. 調査内容

本調査は、実際の鉄道車内で、乗客に扮した学生等を用いた動画・写真を撮影し、優先対象者にそれらを視聴してもらった形のWEBアンケート調査を行った。

調査概要を表-1、回答者の属性を図-1、回答者の年齢を図-2、回答者の性別を図-3に示す。JR東日本の優先席に関する調査²⁾を踏まえて、調査対象者は、楽天インサイトに登録している妊婦、乳幼児連れ、ケガ人、下肢不自由者、内部障がい者、65歳以上の人とした。また、有効サンプルサイズは354である。なお、優先対象者に

視聴していただく行動はI～IVの 4 パターン×2（普通席・優先席）である。

調査内容は4つに区分される。C.行動I～行動IIIに対する感情の項目について、「気持ち良く座れる」、「申し訳ないと思う」等6つの項目を設定した。

表-1 調査概要

調査方法	WEBアンケート調査（楽天インサイト）
調査日	2023年1月13日（金）～1月18日（水）
調査対象者	・妊婦，乳幼児連れ ・下肢不自由者，内部障がい者 ・ケガ人，65歳以上
サンプル	354
行動	行動I 「席，どうぞ」と声がけした後に譲る
	行動II 目線を合わせながら，会釈をして立ち去る
	行動III その場から去る
	行動IV サポートハートマークを付けて座っている
調査内容	A.席を譲って貰うことに関する価値観・習慣
	B.外出時の意識
	C.行動I～行動IIIに対する感情（36問 4件法）
	D.行動IVに対する感情（6問 6件法）

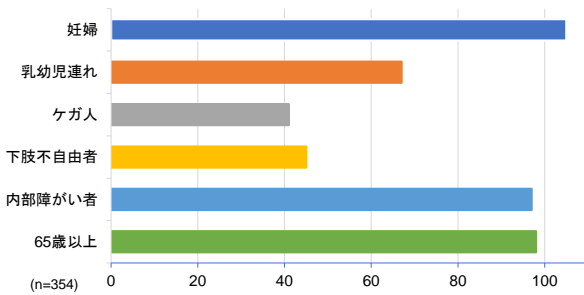


図-1 回答者の属性

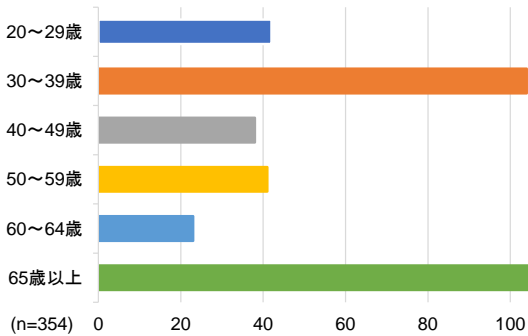


図-2 回答者の年齢

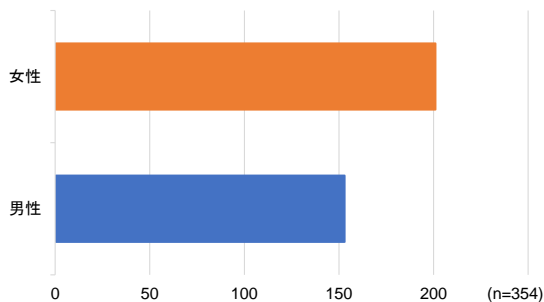


図-3 回答者の性別

3. 結果

調査結果を以下に示す。多重検定を行い，優先対象者の属性毎の配慮した席を譲る行動を検討する。

(1) 優先対象者に配慮した席を譲る行動の把握

意識調査内の動画で示した，一般利用者の席を譲る行動に対して，優先対象者に配慮した行動を把握するために Kruskal-Wallis 検定を行った。具体的には，図-1の各属性の「気持ち良く座れる」，「申し訳ないと思う」について Kruskal-Wallis 検定を行い，行動I～行動III×2（普通席・優先席）の6つの行動に対する「申し訳ないと思う」と「気持ち良く座れる」の差の有無を把握する。次に，差が見られた属性について，多重検定である Steel-Dwass 検定を行うことで，各行動間の差の有無を把握する。検定を行う際に，4件法の「気持ち良く座れる」，「申し訳ないと思う」を2件法に変換した。具体的には，「1.あてはまる」と「2.どちらかと言えばあてはまる」を1，「3.どちらかと言えばあてはまらない」と「4.あてはまらない」を0に変換した。

Kruskal-Wallis 検定の結果と多重検定の手法を表-2，表-3に示す。

表-2 「申し訳ないと思う」の Kruskal-Wallis 検定の結果と多重検定の手法

	p値	判定	検定手法
妊婦	0.00444	**	Steel-Dwass検定
乳幼児連れ	0.0830	-	-
ケガ人	0.0788	-	-
下肢不自由者	0.235	-	-
内部障がい者	0.00341	*	Steel-Dwass検定
65歳以上	0.000832	***	Steel-Dwass検定
マタニティマーク着用	0.157	-	-
ヘルプマーク着用	0.099	-	-

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

表-3 「気持ち良く座れる」の Kruskal-Wallis 検定の結果と多重検定の手法

	p値	判定	検定手法
妊婦	1.06E-14	***	Steel-Dwass検定
乳幼児連れ	1.08E-07	***	Steel-Dwass検定
ケガ人	0.00432	**	Steel-Dwass検定
下肢不自由者	0.00110	**	Steel-Dwass検定
内部障がい者	0.00051	***	Steel-Dwass検定
65歳以上	0.0879	-	-
マタニティマーク着用	1.84E-09	***	Steel-Dwass検定
ヘルプマーク着用	1.99E-02	*	Steel-Dwass検定

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

表-2 から、6 つの行動に対する「申し訳ないと思う」という項目について、「妊婦」と「内部障がい者」、
「65歳以上」で差があるということが分かった。

表-3 から、6 つの行動に対する「気持ち良く座れる」という項目について、「65歳以上」を除く7つの属性で差があるということが分かった。

表-2 から、「申し訳ないと思う」という項目について、妊婦と内部障がい者、65歳以上に対して Steel-Dwass 検定を用いて、多重検定を行った。また、表-3 から、「気持ち良く座れる」という項目について、妊婦と乳幼児連れ、ケガ人、下肢不自由者、内部障がい者、マタニティマーク着用、ヘルプマーク着用に対して Steel-Dwass 検定を行った。

2 つの項目についての検定結果を回答者の属性別に述べる。結果から、申し訳なさを感じにくい行動を把握した後に、その行動の中で気持ち良く座れる行動を把握する。妊婦等のマークを考慮しない属性、マタニティマーク等を着用した属性の順で述べる。

a) 妊婦(n=105)

表-2 と表-3 から、「申し訳ないと思う」と「気持ち良く座れる」について Steel-Dwass 検定を行った。図-4 は「申し訳ないと思う」についての分析結果、図-5 は「気持ち良く座れる」についての分析結果を表す。図-4 と図-5 の横軸は各項目の平均値を表す。

図-4 から、優先席の行動III「その場から去る」と普通席の行動I「声がけ後に譲る」、普通席の行動II「会釈後に立ち去る」の得点間のみで5%の有意差が見られた。

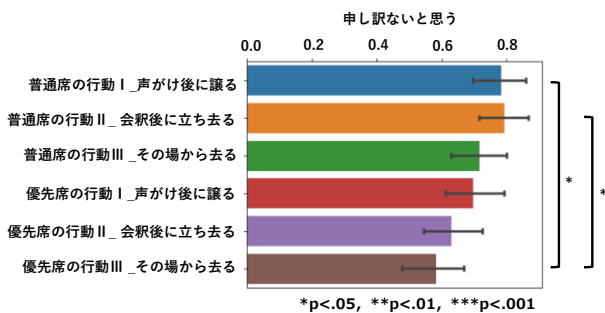


図-4 「申し訳ないと思う」についての分析結果 妊婦

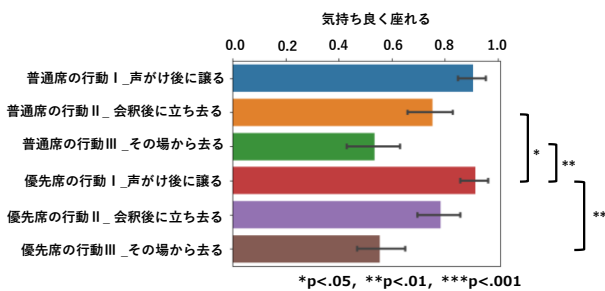


図-5 「気持ち良く座れる」についての分析結果 妊婦

図-5 から、優先席の行動I「声がけ後に譲る」と普通席の行動II「会釈後に立ち去る」の得点間では5%の有意差が見られた。また、優先席の行動I「声がけ後に譲る」と普通席・優先席の行動III「その場から去る」の得点間では1%の有意差が見られた。これらの結果を踏まえて、妊婦に配慮した行動は普通席・優先席の行動I「声がけ後に譲る」、優先席の行動II「会釈後に立ち去る」であるということが分かった。

図-6 の育休コミュニティ MIRAI の調査³⁾から、一部の妊婦は社会からの疎外感・孤立感を覚えていることが明らかになっている。本研究の「声がけ後に譲る」が好まれる理由も一般利用者(健常者)に声がけをしてもらうことで疎外感・孤立感を払拭することができるからだと考えられる。

b) 乳幼児連れ(n=67)

表-2 から、6 つの行動における「申し訳ないと思う」について、差は見られなかった。表-3 から、「気持ち良く座れる」について Steel-Dwass 検定を行った。図-7 は「気持ち良く座れる」についての分析結果を表す。

図-7 から、普通席の行動I「声がけ後に譲る」と優先席の行動II「会釈後に立ち去る」の得点間では5%の有意差が見られた。また、普通席の行動I「声がけ後に譲る」と普通席・優先席の行動III「その場から去る」の得点間では1%の有意差が見られた。この結果を踏まえて、乳幼児連れに配慮した行動は普通席・優先席の行動I「声がけ後に譲る」、普通席の行動II「会釈後に立ち去る」であるということが分かった。

育休中特に辛いこと上位5つ (複数回答可)

1位	睡眠不足	54.3%
2位	突然消える一人時間	52%
3位	社会からの疎外感	43%
4位	孤独さ	33.9%
5位	ワンオペ育児	29.9%

図-6 育休後の働き方に関するアンケート調査結果

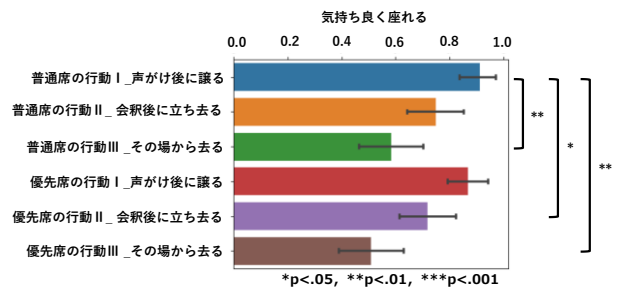


図-7 「気持ち良く座れる」についての分析結果 乳幼児連れ

c) ケガ人(n=41)

表-2 から、6 つの行動における「申し訳ないと思う」について、差は見られなかった。表-3 から、「気持ち良く座れる」について Steel-Dwass 検定を行った。図-8 は「気持ち良く座れる」についての分析結果を表す。

図-8 から、優先席の行動I「声がけ後に譲る」と普通席の行動III「その場から去る」の得点間では 1%の有意差が見られた。この結果を踏まえて、ケガ人に配慮した行動は普通席・優先席の行動I「声がけ後に譲る」、普通席・優先席の行動II「会釈後に立ち去る」、優先席の行動III「その場から去る」であるということが分かった。

d) 下肢不自由者(n=45)

表-2 から、6 つの行動における「申し訳ないと思う」について、差は見られなかった。表-3 から、「気持ち良く座れる」について Steel-Dwass 検定を行った。図-9 は「気持ち良く座れる」についての分析結果を表す。

図-9 から、優先席の行動I「声がけ後に譲る」と普通席の行動III「その場から去る」の得点間では 1%の有意差が見られた。この結果を踏まえて、下肢不自由者に配慮した行動は普通席・優先席の行動I「声がけ後に譲る」、普通席・優先席の行動II「会釈後に立ち去る」、優先席の行動III「その場から去る」であるということが分かった。

e) 内部障がい者(n=97)

表-2 と表-3 から、「申し訳ないと思う」と「気持ち良く座れる」について Steel-Dwass 検定を行った。図-10 は「申し訳ないと思う」についての分析結果、図-11 は

「気持ち良く座れる」についての分析結果を表す。

図-10 から、優先席の行動I「声がけ後に譲る」と普通席の行動III「その場から去る」の得点間のみで 1%の有意差が見られた。図-11 から、優先席の行動I「声がけ後に譲る」と普通席の行動III「その場から去る」の得点間では 5%の有意差が見られた。また、優先席の行動I「声がけ後に譲る」と優先席の行動III「その場から去る」の得点間では 1%の有意差が見られた。これらの結果を踏まえて、内部障がい者に配慮した行動は優先席の行動I「声がけ後に譲る」、普通席・優先席の行動II「会釈後に立ち去る」であるということが分かった。

f) 65 歳以上(n=98)

表-2 から、6 つの行動における「申し訳ないと思う」について Steel-Dwass 検定を行った。表-3 から、「気持ち良く座れる」について、差は見られなかった。図-12 は「申し訳ないと思う」についての分析結果を表す。

図-12 から、優先席の行動III「その場から去る」と普通席・優先席の行動I「声がけ後に譲る」、普通席の行動II「会釈後に立ち去る」の得点間では 5%の有意差が見られた。これらの結果を踏まえて、65 歳以上に配慮した行動は優先席の行動II「会釈後に立ち去る」、普通席・優先席の行動III「その場から去る」であるということが分かった。

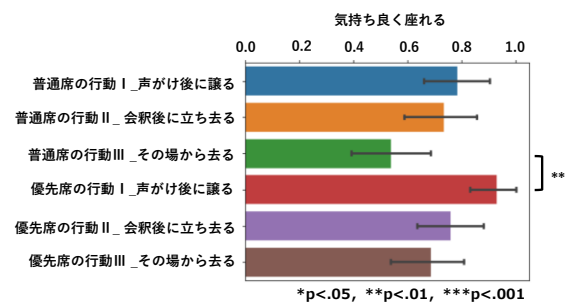


図-8 「気持ち良く座れる」についての分析結果 ケガ人

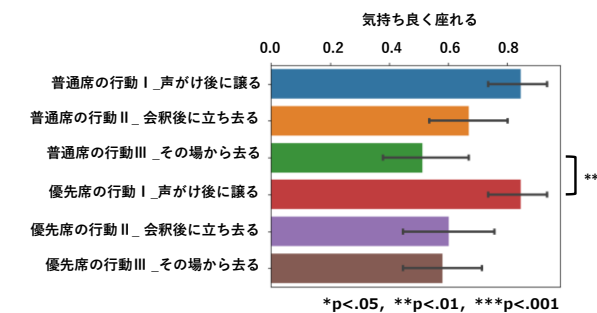


図-9 「気持ち良く座れる」についての分析結果 下肢不自由者

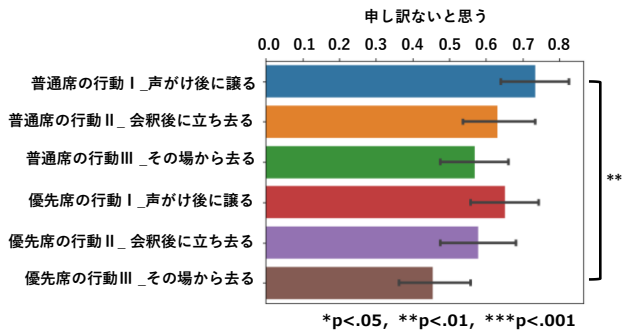


図-10 「申し訳ないと思う」についての分析結果 内部障がい者

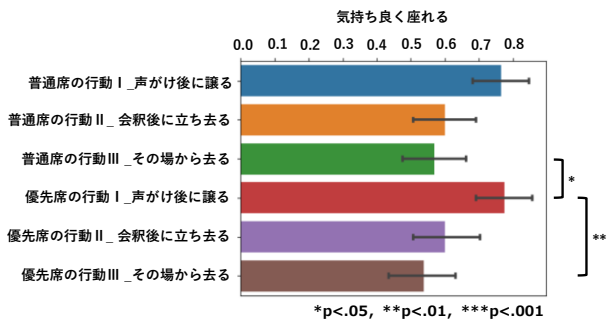


図-11 「気持ち良く座れる」についての分析結果 内部障がい者

g) マタニティマーク着用(n=65)

表-2 から、6つの行動における「申し訳ないと思う」について、差は見られなかった。表-3 から、「気持ち良く座れる」について Steel-Dwass 検定を行った。図-13 は「気持ち良く座れる」についての分析結果を表す。

図-13 から、普通席の行動I「声がけ後に譲る」と普通席の行動II「会釈後に立ち去る」、普通席の行動III「その場から去る」の得点間では1%の有意差が見られた。

この結果を踏まえて、マタニティマークを着用した妊婦に配慮した行動は普通席・優先席の行動I「声がけ後に譲る」、普通席・優先席の行動II「会釈後に立ち去る」であるということが分かった。

マタニティマークを着用した妊婦は妊婦という属性に含まれていることから、行動I「声がけ後に譲る」が配慮した行動になったと考えられる。また、マタニティマークを着用した妊婦は自身の存在を気づいて欲しいと考えていることが予想されるので、行動II「会釈後に立ち去る」が配慮した行動になったと考えられる。

h) ヘルプマーク着用(n=80)

表-2 から、6つの行動における「申し訳ないと思う」について、差は見られなかった。表-3 から、「気持ち良く座れる」について Steel-Dwass 検定を行った。図-14 は「気持ち良く座れる」についての分析結果を表す。

図-14 から、優先席の行動I「声がけ後に譲る」と優先席の行動II「会釈後に立ち去る」の得点間では5%の有意差が見られた。この結果を踏まえて、マタニティマークを着用した妊婦に配慮した行動は普通席・優先席の行動I「声がけ後に譲る」、普通席の行動II「会釈後に立ち去る」、普通席・優先席の行動III「その場から去る」であるということが分かった。

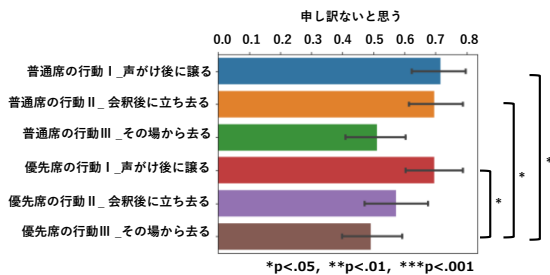


図-12 「申し訳ないと思う」についての分析結果

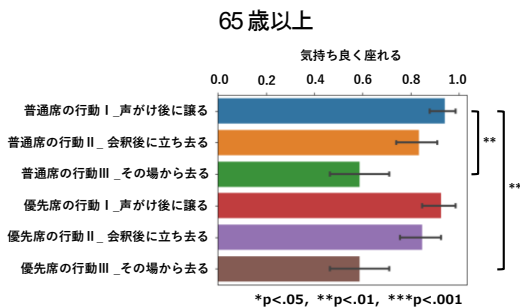


図-13 「気持ち良く座れる」についての分析結果
マタニティマーク着用

ヘルプマークを着用した優先対象者は自身の存在を気づいて欲しいと考えていることが予想されるので、行動I「声がけ後に譲る」、行動II「会釈後に立ち去る」、行動III「その場から去る」が配慮した行動になったと考えられる。

(2) 優先対象者の属性毎の配慮した行動

(1)の多重検定の結果を踏まえ、優先対象者の属性毎の配慮した行動を表-9に示す。各属性について、配慮した行動が普通席・優先席それぞれで同じである場合は、その行動を配慮した行動とする。

表-9 の配慮した行動について、妊婦と乳幼児連れは「声がけ後に譲る」、内部障がい者は「会釈後に立ち去る」、65歳以上は「その場から去る」である。また、ケガ人、下肢不自由者、マタニティマークを着用している妊婦は「声がけ後に譲る」と「会釈後に立ち去る」、ヘルプマークを着用した優先対象者は「声がけ後に譲る」と「その場から去る」である。

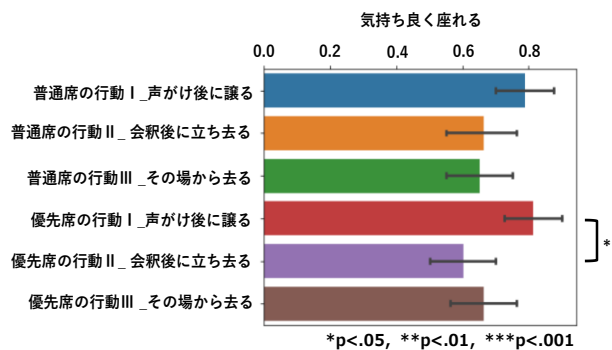


図-14 「気持ち良く座れる」についての分析結果
ヘルプマーク着用

表-9 優先対象者の属性毎の配慮した行動

属性	行動
妊婦	行動I「声がけ後に譲る」
乳幼児連れ	行動I「声がけ後に譲る」
内部障がい者	行動II「会釈後に立ち去る」
65歳以上	行動III「その場から去る」
ケガ人	行動I「声がけ後に譲る」 行動II「会釈後に立ち去る」
下肢不自由者	行動I「声がけ後に譲る」 行動II「会釈後に立ち去る」
マタニティマークを着用した妊婦	行動I「声がけ後に譲る」 行動II「会釈後に立ち去る」
ヘルプマークを着用した優先対象者	行動I「声がけ後に譲る」 行動III「その場から去る」

4. おわりに

本研究では、優先対象者に配慮した席を譲る行動を把握するために、アンケート調査及び分析を行った。表-9 から導き出される結論を以下に示す。なお、配慮した行動が単一である属性、配慮した行動が複数である属性の順で述べる。

- ・妊婦、乳幼児連れに配慮した行動は「声がけ後に譲る」である。
- ・内部障がい者に配慮した行動は「会釈後に立ち去る」である。
- ・65 歳以上に配慮した行動は「その場から去る」である。
- ・ケガ人、下肢不自由者、マタニティマークを着用している妊婦に配慮した行動は「声がけ後に譲る」と「会釈後に立ち去る」である。
- ・ヘルプマークを着用した優先対象者に配慮した行動は「声がけ後に譲る」と「その場から去る」である。

最後に、結果を踏まえた施策提案を述べる。属性毎に配慮した席を譲る行動が異なるということを周知する方

法についても考える必要がある。

謝辞：本研究の遂行にあたり、東武鉄道南栗橋車両管区七光台支所より鉄道車両での撮影にご協力いただいた。ここに記し謝意を表する。

参考文献

- 1) 首相官邸, “心のバリアフリーについて”, https://www.kantei.go.jp/jp/singi/to-kyo2020_suishin_honbu/udsuisin/program.html, 最終閲覧日 2023-1-29.
- 2) 押越良介, 坂入整: Special edition paper 優先席に関する調査研究, JR EAST Technical Review-No.47, 2013
- 3) 育休コミュニティ MIRAI, “8 割の女性、出産前とのギャップに身体的・精神的負担と社会からの疎外感・孤立感”, <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000047003.html>, 最終閲覧日 2023-3-4

A STUDY OF THE BEHAVIOR OF GIVING UP A SEAT FOCUSING ON THE CONSCIOUSNESS OF HANDICAP PEOPLE

Masayuki TAKATA, Haruka UNO, Shintarou TERABE, Hideki YAGINUMA and Yu SUZUKI

In public transportation, there are cases that general users cannot give up their seat. It is thought that the reason why general users are not given up their seats is that they do not understand the words and deeds that are no stress for the handicap people. Therefore, in this study, we aim to grasp the behavior that is no stress for the handicap people. The questionnaire survey and analysis revealed that the most considerate action for pregnant women and those with infants is "Give up after talking to," the most considerate action for persons with internal disabilities is "Leave the place after nodding," and the most considerate action for persons aged 65 and over is "Leave the place". The behaviors that are considerate to injured people, people with lower limb disabilities, and pregnant women wearing a maternity mark are "Give up after talking to" and "Leave the place after nodding," while the behaviors that are considerate to priority subjects wearing a help mark are "Give up after talking to" and "Leave the place".